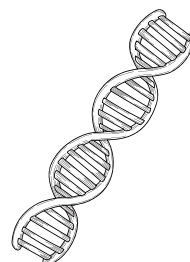
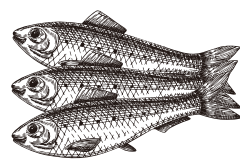
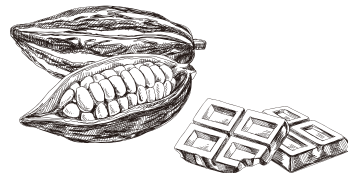
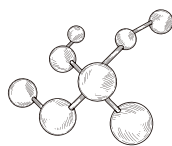


生物生産学部

生物生産学部
学部案内



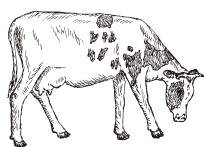
広島大学生物生産学部は、

「生物に関わる生産≒実学」を学び、研究する学部です。

「生物を科学する」という理学部生物学科の特徴と

「生物系の実学」である

農学の特徴を併せ持った学部です。



生物生産学部

II

「生物に関わる生産≒実学」

を学ぶ

生物生産学部は、「生物に関わる生産≒実学」を学び、研究する学部です。つまり、「生物を科学して」、「生物資源を産業応用する」という生物の基礎から応用までを学ぶことができる学部といえます。そして、生物生産学部は、その中でも「食」を中心に据え、食資源の生産とその環境、食品の加工、食による健康に焦点を当てた以下の5つの主専攻プログラム(水圏統合科学プログラム、応用動植物科学プログラム、食品科学プログラム、分子農学生命科学プログラム、国際生物生産学プログラム)を設置しています。

生物生産学部は、スマート農業の実証試験ができる西日本最大級の附属農場、サンプリングだけでなく各種実験が海上でできる練習船、瀬戸内海の里海で実習と研究ができる水産実験所、食品加工を体験できる食品実習工場などで教育を実施しています。そして、学部生全員がこれらの充実した附属施設で実施される体験型実験実習を履修できるカリキュラムを構成し、最先端の生物学を実際の生産に展開できる即戦力人材の養成を目指しています。いずれのプログラムにおいても食品関連企業や農業部門の公務員などへの高い就職率を達成しています*。

生物生産学部の教授陣は、各分野で世界的な評価が高い研究者で、大学院の統合生命科学研究科にも所属しています。生物生産学部の卒業生の約半数は大学院へと進学し、教員とともに世界最先端の研究活動を行っています。新聞やテレビに報道されている研究成果に加えて、多くの研究成果が世界的に評価の高い学術誌に掲載されています。

生物生産学部の入試では、一般選抜(前期日程、後期日程)に加えて、総合型選抜(光り輝き入試)として、セミナーを受講して総合問題に答える「セミナー受講型」と高校で実施している(た)課題研究を発表し、質疑応答により評価する「課題研究評価型」を実施しています。さらに、農業高校などを対象とした学校推薦型選抜II型や学部3年生に編入する編入学試験も実施しています。

大学を取り巻く環境、期待されることは常に変わっています。一方、生物の生命現象や食にかかわる問題の多くは不変的です。生物生産学部では、入学者選抜方式、カリキュラム、求められる卒業生の資質(ディプロマ・ポリシー)について、「生物に関わる生産≒実学」を体験型学習で学ぶという根幹を変えず、しかし必要ところは時代の変化に合わせて変えていくことで、広島大学の掲げる「持続可能な発展を導く科学」として、SDGs(持続可能な開発目標)の食にかかわる分野に貢献し、そこで活躍する人材を養成していきます。

*学部卒で就職する学生は約半数で、その就職内定率は、ほぼ100%です(公務員、食品関連企業等)。残りの半数の卒業生は、広島大学の大学院に進学し、さらに学び、研究した後、食品関係や製薬関係などの民間企業あるいは公務員に就職しています(その就職内定率も、ほぼ100%です)。

学部長あいさつ
生物生産学部長 島田 昌之



生物生産学部の目的

生物生産学部には水圏統合科学、応用動植物科学、食品科学、分子農学生命科学の4プログラムがあり、それぞれに独自の教育プログラムを設けています。1年次及び2年次前期までは主に教養科目を学びながら、生物生産学入門などの「専門基礎科目」や生物生産学に関連する実験や実習などを履修します。2年次前期終了時に、自身の希望と学業成績によって主専攻プログラムを決定し、各プログラムのもとで、専門分野について深く学びます。3年次後期から指導教員を決定し、卒業論文のための研究を行います。その過程において、問題の発掘と解決の能力を養い、それを表現するプレゼンテーション能力などを身につけます。
※国際生物生産学プログラムは、1年次前期に選抜により配属され、2年次後期に指導教員を決定します。



アドミッション・ポリシー

- 1. 求める学生像**
 - ・高等学校での基礎的な学力を幅広く身につけ、特に理科において高い学力を有する人
 - ・食料や環境に関して問題意識が高い人
 - ・将来、食料や環境に係わる仕事に就いて社会で活躍することを希望する人
- 2. 入学者選抜の基本方針**

生物生産学部には生物生産学科を設置しており、学生の多様なニーズに応え、卒業後の幅広い進路に対応するこれらの人を受け入れるため、編成している各主専攻プログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学者に求める能力やその評価方法を「学力の3要素」と関連付けて明示し、多面的・総合的な評価による選抜を実施します。

生物生産学部の理念

生物生産学部は、人類の持続的生存と福祉の向上に貢献できる人材を養成するため、次の理念をもとに、教育・研究を行います。

- ・生物圏の環境保全
- ・生物資源に関わる知の創造
- ・健康で豊かな食の創成
- ・地域と国際社会への貢献
- ・環境に調和した食料の生産



生物生産学部は、環境と調和した持続可能な食料生産及び生物資源の活用を目指し、生物及び環境に関わる農学領域の知の継承と創造を通して教育研究を行うことにより、この領域の科学的知識と地球規模の広い視野をもって活躍し、社会に貢献し得る人材を養成することを目的とします。



教育課程の特色

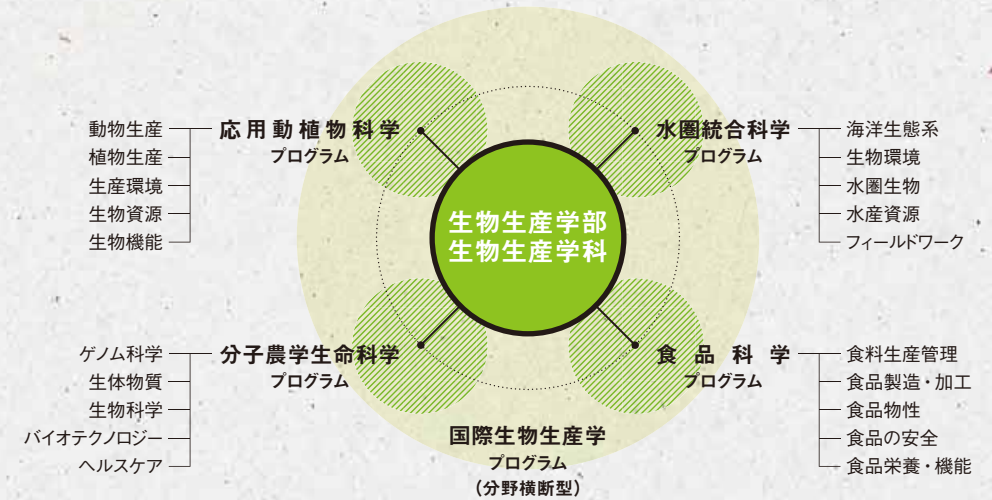
4年間の学びのステップ

広い視野をもって社会に貢献できる人材を育成する

生物生産学部では、
生物生産に係わる自然科学から社会科学に及ぶ幅広い知識と知恵を身に付けさせることを目標としています。

具体的には、

- ①食料生産、生物資源、生物環境、バイオテクノロジーに係わる基礎的知識の修得
 - ②フィールド科学分野の体験学修
 - ③生命倫理や科学技術の倫理の理解
 - ④英語等の語学能力や情報処理能力の修得
- を目指した教育を行います。



1年次

2年次前期まで
基礎科目を中心に
学びます。

教養教育科目を中心に学びます。

幅広い教養に支えられた豊かな人間性を培う教養ゼミ、平和科目、大学教育入門、外国語科目、情報・データサイエンス科目、領域科目、健康スポーツ科目などと共に、専門科目の基礎となる基盤科目を履修します。生物生産学部が開講する生物生産学入門など「専門基礎科目」も始まり、インターンシップやフィールド科目も受講できます。

前期

後期

教養教育科目

2年次

2年次前期終了時に、
自身の希望と学業成績によって
プログラムを決定。

専門基礎科目を学び、
各プログラムに配属されます。

個々の専門分野を学ぶ前に、幅広い専門基礎科目を履修します。前期には、主に専門基礎科目や、生物生産学に関連する実験・実習を履修します。後期には、4つのプログラムの1つに配属され、専門分野について、深く学び始めます。

前期

後期

専門基礎科目

3年次

3年次後期から指導教員が決定！
専門教育科目の履修と
卒業論文のための研究。

専門分野をより深く学び、
研究室に所属します。

前期には、各プログラムの専門分野に関連する授業や実験・実習を履修します。いよいよ後期から指導教員を決定し、教員や大学院生と共に、卒業論文の作成のための高度な研究課題に取り組み始めます。その過程において、問題の発掘と解決の能力を養い、それを表現するプレゼンテーション能力を身に付けます。

前期

後期

専門科目

4年次

卒業に向けて
ラストスパートです。

卒業研究活動が中心になります。

研究活動が本格化し、研究成果を卒業論文として完成させます。広島大学は、就職を視野に入れたキャリア支援プログラムが充実しており、全国の食品・医薬・化学メーカー、環境関連企業、教員や公務員などに、多くの先輩たちがいます。毎年、卒業生の多くが大学院に進学します。

前期

後期

卒業研究

卒業

就職・大学院進学

卒業生の多くが
大学院に進学し、
就職先は、
多岐分野に
わたります。
P30参照

各年次の概要及び履修

●国際生物生産学プログラムは1年次前期に選抜により配属され、2年次後期に指導教員を決定します。

取得可能免許・資格

食品衛生監視員となる資格



食品衛生監視員は、食品営業施設の立ち入り調査や食品製造業者・飲食店の監視・指導、改善等を行うことが主な仕事です。

食品衛生管理者となる資格



食品衛生管理者は、食品や添加物を製造・加工する施設で、食品の衛生を管理することが主な仕事です。

学芸員となる資格



学芸員として任用された場合、専門職員として、博物館法で定められた動物園や水族館などで展示方法や飼育、繁殖等の研究を行います。

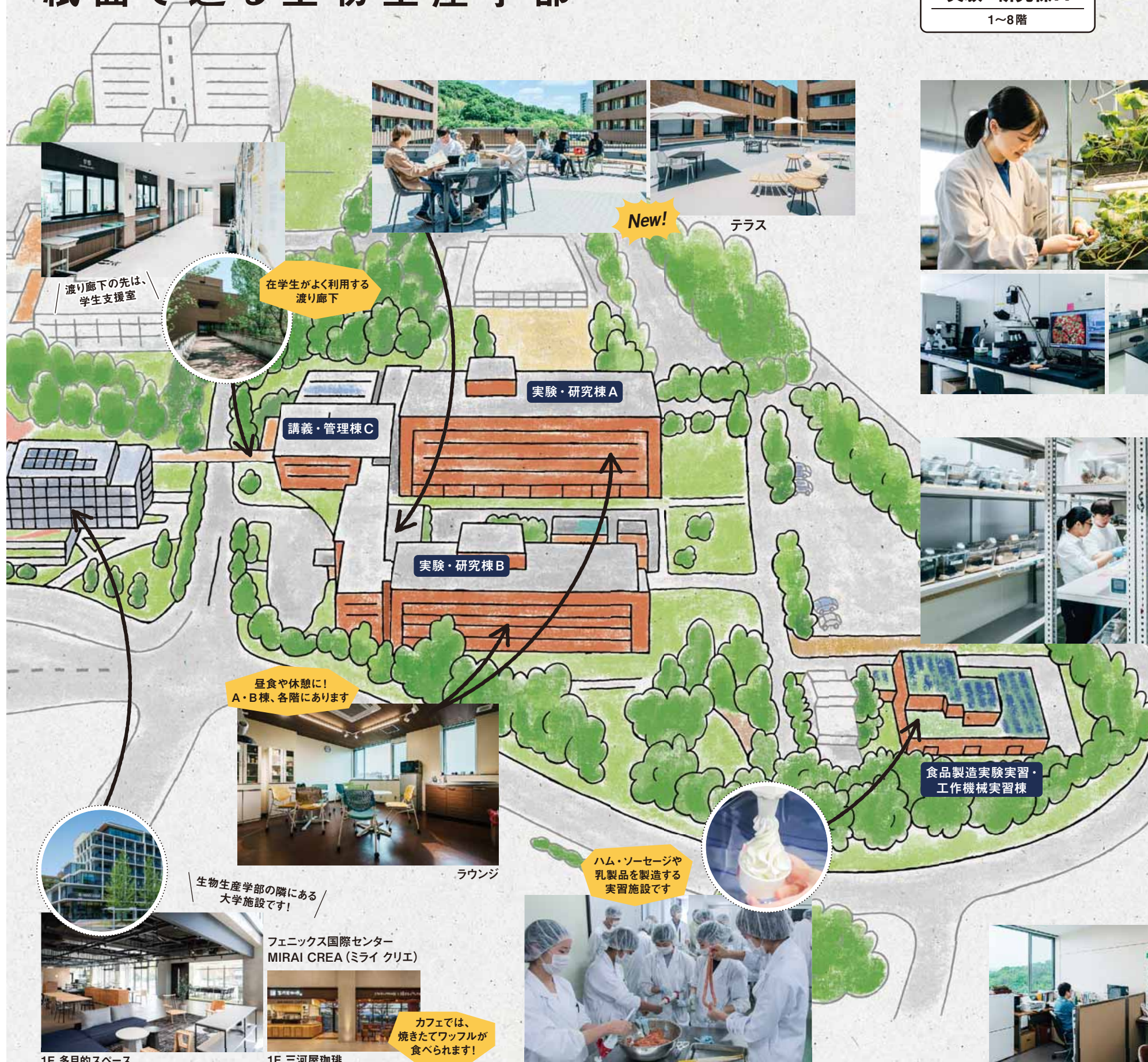
甲種危険物取扱者の受験資格



甲種危険物取扱者は、消防法で指定された、全ての危険物を取り扱うことができる国家資格です。生物生産学部は、「甲種の受験資格である化学に関する学科」として認められています。

紙面で巡る生物生産学部

実験・研究棟 A
1~8階



実験室
最先端の実験設備を導入し、特色ある研究が行われています。



動物飼育室
機能的栄養物質の検査などのために、マウスなどの小動物を飼育しています。



学生室
明るく開放的な学生室は、フリーアドレスで使用できます。



恒温室
植物の精密な実験のために恒温室を備えています。



教員室



セミナー室
研究室のセミナーや発表会などに使用されています。

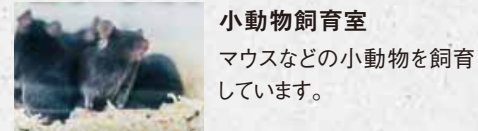
実験・研究棟B

1~5階



生物系学生実験室

さまざまな動物や微生物を用いた化学・生物学実験実習が行われます。



小動物飼育室

マウスなどの小動物を飼育しています。



孵卵室

ニワトリやタマゴに関する研究を支える設備です。



セミナー室
研究室のゼミや発表会などに
使用されています。



実験室

先端機器をそろえています。



教員室



ラウンジ



学生室

講義・管理棟C

1~3階

生物生産学部ハブ的な建物です。学生支援室やテラス、コミュニティルーム、講義室等があります。



講義室
遠隔講義にも対応した明るい講義室で



コミュニティルーム 2F

学生の集いの場として利用できる多目的スペースです。在学証明書やJRの学割などが発行できる、証明書自動発行機も設置しています。



学生支援室 2F

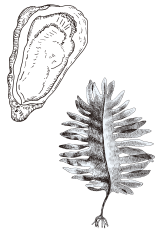
修学に関する手続きのサポートや情報提供など、充実した学生生活を送ってもらうための窓口です。



テラス 2F (コミュニティルーム横)

開放的なスペースで食事をしたり、くつろぎの場所として使える屋外スペースです。





水圏統合科学プログラム

日本と世界の水産を支える人材育成を目指して



海洋や河川などの水域には有用な水生生物が多く生息し、人類に大きな恵みをもたらしています。その恵みを持続的に活用していくためには、水生生物及びそれらを取りまく環境について広く理解することが不可欠です。同時に、漁業者や研究者の生の声を聞き、現実的な問題に即して学問を進める姿勢も重要です。本プログラムでは、講義・実験・フィールドワークを通じて、①水圏の環境や生態系の物質循環に関する基礎的知識を学び、②水産資源の増養殖や環境保全に必要な知識と研究方法を体系的に修得し、③水圏における生物資源の生産や研究現場における問題の解決について、国際的視野から思考する能力を身につけます。これらの教育と研究を通じて、多様化する社会のニーズに対応できる人材を育成します。

プログラムのポイント

POINT 01 充実したフィールド実習施設

練習船豊潮丸は中国四国地域で唯一の大学附属の練習船で、国際航海も可能です。実習や研究調査航海に活用されています。また、海まで徒歩0秒の立地を誇る水産実験所は宿泊施設も併設され、腰を据えてフィールド実習を行うことができます。練習船・水産実験所ともに最新の機器を備えており、最先端の研究を実践的に学ぶことができます。



POINT 02 水圏の環境と生物生産を体系的に学べる!

水圏の生物・環境・産業に関する知識を修得し、水産資源の管理と利用について、基礎的知識から発展的応用までトータルで学ぶための豊富な授業科目が用意されています。自分の興味に合った科目を選ぶオーダーメイド型の専門教育カリキュラムです。もちろん他の教育プログラムの授業も選択科目として組み込んで自分の可能性を広げることができます。



POINT 03 人材育成における強み

水産業と水圏環境の保全を両立させるために必要な理論を理解し、水圏生物の諸特性について分析・評価できる知識と経験を身につけます。国や地方自治体には、水産や水圏環境について大学で体系的に学んだ学生のための専門技術職があります。本プログラムは、この専門技術職の採用試験を突破して公務員として活躍する卒業生を多数輩出しています。



在学生の声



水圏統合科学プログラムでは、海や生き物が好きな仲間とともに学び研究をする

瀨尾 尚太 (2024年3月卒業)
広島県立福山誠之館高等学校卒業

水圏統合科学プログラムでは、豊潮丸での乗船実習が一番特徴的だと思います。実際に船に乗って数日間船上で生活をするという特別な経験をすることができます。また、3年生の後期に配属される研究室では、豊富な知識を持った先生や優しい先輩と、実地での実習や研究室での実験など、さまざまな卒業論文研究を行うことができます。

履修スケジュール (2年次 後期/4ターム)

	MON.	TUE.	WED.	THU.	FRI.
1-2	水産食品化学	動物遺伝育種学	水圏生産科学I	水圏環境学I	水圏生物多様性論I
3-4					
5-6	教育方法・技術論及び情報活用教育論	集中他 飢餓・貧困解決を目指したグローバル洋上演習、水圏生物学実験I、分子農学生命科学実験I			
7-8					
9-10					

専門科目



多くを学び経験を積める機会が、こころが通っているそれを自分で見つけよう有効活用するか

河内 康 (2024年3月卒業)
福岡県立鞍手高等学校卒業

大学では高校とは比べ物にならないほど色々な経験、学びの機会があり、自分の限られた時間を有効活用する力を鍛えることができます。また、先生方は学生の積極的な態度に応じてくれ、自分の好きなこと、自分に合った研究スタイルなどを探しやすい学び場だと思います。一緒に水圏統合科学プログラムで新たな自分へ成長しましょう!

履修スケジュール (3年次 前期/1ターム)

	MON.	TUE.	WED.	THU.	FRI.
1-2	生殖生物学	水圏増殖学II	植物分子生物学	水圏動物学II	水圏統合科学演習I
3-4					
5-6	集中他 国際漁業学、応用動植物科学特論I、水圏フィールド科学実習I				
7-8					
9-10					

専門科目

教員と研究分野



海野 徹也教授
水圏生物の持続的利用のための生態学的研究



大塚 攻教授
プランクトンと寄生虫の分類、生態、進化を通して生物多様性を探る



小池 一彦教授
微細藻類の生態、進化、利用



坂井 陽一教授
瀬戸内海やサンゴ礁の魚の繁殖・採餌活動や種間関係についての研究



富山 毅教授
魚類の生産と生態



長沼 毅教授
深海・地底・南極の微生物学、マリンバイオテクノロジー



浅岡 聡准教授
分析化学をツールとした水環境の評価・修復に関する研究



加藤 亜記准教授
海藻類の増養殖・保全に関する系統分類および生理生態学的研究



国吉 久人准教授
クラゲ類の幼生期の変態に関する研究



斉藤 英俊准教授
干潟やカキ筏をすみかとする生き物の生態についての研究



中口 和光准教授
船舶の運航と管理



橋本 俊也准教授
現場観測や数値モデルなどを用いた、海洋域における環境問題の解明



Lawrence M. Liao 准教授
熱帯・亜熱帯域における海藻類の系統分類と生物地理に関する研究



吉田 将之准教授
心の生物学的基盤に関する研究



若林 香織准教授
自然と調和した魚介類増養殖技術の開発



豊田 賢治助教
水生無脊椎動物の性形質に焦点を当てた生理生態学的研究



山口 修平助教
船舶の運航と管理

卒業後の進路

企業等：アクア・グリーン、岩谷瓦斯、魚力、がまかつ、シマノ、富士通、フジナグループ本社、宮島水族館 など
公務：国土交通省、広島県、福岡市、行橋市

夢ナビ Yumenavi 生物生産学部の教員によるミニ講義

学問発見サイト「夢ナビ」(管理運営：株式会社フロムページ)では、生物生産学部の教員によるミニ講義がご覧いただけます。





応用動植物科学プログラム

動物と植物を有効活用して食料と豊かな暮らしを創造する



食べ物がなくて我々は生命を維持できず、豊富な食べ物がなければ決して楽しい生活とは言えません。しかし、普段、食卓で目にする食べ物がどのように生産されているかは、日常、ほとんど目にする機会はありません。本プログラムでは、動物や植物から得られる食べ物についてどのように生産されているのか、どのような問題があるのか、それを解決する最先端の研究を講義やフィールドでの実習、また卒業研究を通じて学ぶことができます。具体的には①動物のからだのしくみ、遺伝的能力の改良や生殖の人為的制御、飼料や飼育環境および動物福祉、②植物の生理機能や植物生産を支える土壌の構造・機能を学び、我々の健康で楽しい生活に動植物の生産分野から貢献できる知識と技術を修得し、問題解決能力を身に付け、国際的に活躍できる能力を養います。

プログラムのポイント

POINT 01 中国四国地域、いや、国内で唯一のフィールド実習施設!

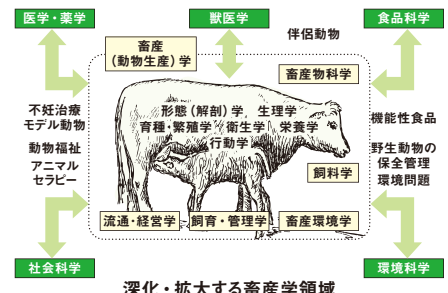
附属農場は、中国四国地域で唯一の酪農教育・研究施設です。351,000㎡の敷地面積に、ウシやヤギなどの動物を飼育し、フィールド教育、研究を行っています。国内大学で唯一、搾乳ロボットや牛舎環境システムを導入した次世代牛舎を有し、地球温暖化や省力化を見据えた先端的な研究を実践の場で学べます。

POINT 02 応用動植物科学を体系的に学べる!

日本に農学系学部のある大学は、約60大学あります。その中で応用動植物を学べる大学は約半分、さらに体系的に学ぶことができる大学となると3分の1もありません。さらに中四国地方となると2大学です。広島大学の応用動植物科学分野は、その国内状況の中で世界の食料生産も視野に入れた教育と研究を学べる、意外に少なく、意外と深い分野です。

POINT 03 体系的に学べる強みは?

国や地方自治体には、畜産や農業技術職といった大学で体系的に応用動植物科学を学んだ学生のための専門技術職があります。毎年、本プログラムの学生の中には、この専門技術職の採用試験を受験し、多くの卒業生が国家公務員、地方公務員として体系的に学んだ知識を活かして活躍しています。



在学生の声



体を動かして動物や植物を実際に触ってみることで、分からないことを学んでいく場所

井上 昂哉 (2024年3月卒業)
兵庫県立姫路西高等学校卒業

フィールドワークが多いので人の生活に必要な不可欠な食料生産を向上させることについて実際に動物や植物と触れ合い、授業を聞くだけでは感じることができないことをたくさん学べるため、動物や植物が好きなのはもちろん、体を動かすことが好きな人にとって楽しみながら学ぶことのできる最高の場所だと思います。

履修スケジュール (2年次 後期:3ターム)

	MON.	TUE.	WED.	THU.	FRI.
1-2		食品衛生学	動物生体機構学	植物栄養生理学	動物生産学概論
3-4					
5-6	集中他				
7-8	応用動植物科学実験実習、動物生産学実験I				
9-10					

専門科目



農場・圃場で実習でき、興味あることを深く追求できる

小山 莉奈 (2024年3月卒業)
広島県立安古市高等学校卒業

私たちの生活に欠かせない動植物の生産から利用までの幅広い分野について、先生方による楽しい講義や農場・圃場での実験実習を通してしっかりと学ぶことができ、私はそれまで漠然と抱いていた生き物が好きという思いがより強く具体的になりました。興味のあることに対して熱意を注ぐ仲間たちと学び先生や先輩のサポートを受け、多くのことを吸収しながら日々研究に取り組めるのも、魅力の1つだと思います。

履修スケジュール (2年次 後期:4ターム)

	MON.	TUE.	WED.	THU.	FRI.
1-2		動物遺伝育種学	植物生産土壌学		動物栄養学
3-4					
5-6	集中他				
7-8	応用動植物科学実験実習、動物生産学実験I				
9-10					

専門科目

教員と研究分野



磯部 直樹教授
安全な牛乳を生産するための免疫・内分泌機能



上田 晃弘教授
植物の環境ストレス耐性および植物の生育を促進する善玉菌の探索



小櫃 剛人教授
環境に調和した家畜生産を目指した飼料と栄養の研究



杉野 利久教授
飼養管理技術による内分泌系及びそれに伴う動物生産性の調節



富永 るみ教授
植物の根毛形成と土壌環境に関する研究



米澤 隆弘教授
日本鶏をはじめとした家畜の起源や伝播、交雑の歴史をゲノム情報から解き明かします



梅原 崇准教授
雌雄の生殖機構に関する研究と、それを基盤とした生殖工学技術の開発



河上 眞一准教授
家畜生体機能の環境生理学的解明



黒川 勇三准教授
物質循環に基づいた生産性の高い飼料生産システム(放牧を含む)構築



長岡 俊徳准教授
植物生産における有機物の効率的施用と土壌養分の動態に関する研究



中村 隼明准教授
生殖幹細胞を用いた動物遺伝資源の保存とヒト不妊治療技術の開発



新居 隆准教授
鳥類の消化管および生殖器官の粘膜感染防御機能に関する研究



稲生 雄大助教
生理・内分泌機能に着目した家畜飼養管理技術の構築



菊田 真由助教
熱帯地域における作物の生産性向上に向けた栽培学的研究



鈴木 直樹助教
乳房炎の発生制御および早期診断技術に関する研究



妹尾 あいら助教
家畜や伴侶動物などの福祉の向上を目指したフィールド研究

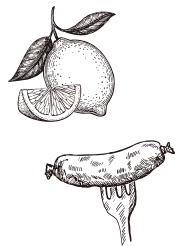
卒業後の進路

企業等: アイリスオーヤマ、寿がきや食品、生活協同組合コープこうべ、全国農業協同組合連合会、フジパングroup本社、雪印メグミルク など
公務: 農林水産省、国土交通省、岡山県、広島県、福岡県、熊本県、大分県、福岡市

夢ナビ Yumenavi 生物生産学部の教員によるミニ講義

学問発見サイト「夢ナビ」(管理運営: 株式会社フロムページ)では、生物生産学部の教員によるミニ講義がご覧いただけます。





食品科学プログラム

健康で豊かな食の創成を目指して



安心・安全な食品を安定して供給するためには、持続可能な食料生産・流通体系や衛生管理が必要です。また、高機能・高品質な食品の製造・開発は、人類の健康の維持・増進や豊かな生活の実現につながります。本プログラムでは、食料がどのように生産され、消費者に届くのか、食品産業における問題は何か、食と健康との関わりについて、専門的な講義・実験、実践的な食品製造実習などを通じて幅広く学ぶことができます。具体的には、①食料の生産管理と流通、②食品の製造と加工、③食品の物性と美味しさ、④食の安全性、⑤食品の栄養と機能性、⑥食資源の有効利用など、最先端の知見に触れながら学ぶことができ、広い視野から健康で豊かな食の創成に貢献できる人材を養成します。

プログラムのポイント

POINT 01

食品の流通や製造を体験的に学べる環境が充実!

附属の食品実習工場では、畜産物や水産物を原料とした食品の製造実習を行うとともに、最新の機器を用いた食品の品質・安全性・機能の分析ができます。また、企業の食品工場見学や農業の現場体験など、体験的に学ぶカリキュラムが充実しています。

POINT 02

食料の生産から流通、食品の安全性・機能性を統合的に学べる!

食料の生産から流通、食品の安全性・栄養・嗜好性・物性・生体調節機能を個々に学べる農学系学部は全国にあります。食料の生産から食品として消費者が口にした後の健康効果までを見据え、これらを統合的に学修できるのは広島大学だけです。

POINT 03

統合的に学べる強みは?

民間の食品・化学・製薬企業や官公庁など、食に関わる専門技術職は多岐に渡ります。食品科学分野の専門的な知識や技術を深く幅広く修得した先輩たちが社会で活躍しています。



在学生の声



川原 佳菜子 (2024年3月卒業)
広島県立呉三津田高等学校卒業

免疫調節作用を有する微生物を探索し、新たな機能性食品素材としての活用を目指す

私は、発酵食品の製造などに関わる微生物が有する抗アレルギー特性について研究しています。身近な食品成分を用いた研究にやりがいを感じています。私たちの生活に密接に関わる「食」に関して、食品成分による生体調節作用や食品物性などさまざまな観点からアプローチすることができる点が、食品科学プログラムの魅力だと思います。

履修スケジュール (3年次 前期:1ターム/2ターム)

	MON.	TUE.	WED.	THU.	FRI.
1-2	なし	食品機能学	食品物性工学	食料システム学	食品微生物学
3-4	応用極限生命科学	なし	食品栄養学	食品科学外書講読	生物資源利用学
5-6	集中他				
7-8	食品化学実験、海洋生物資源化学実験、栄養生化学実験、水産食品製造学実験実習、畜産食品製造学実験実習、食品工場見学、食料生産工程管理論、食料情報管理学				
9-10					

専門科目



田原 滉大 (2024年3月卒業)
埼玉県立松山高等学校卒業

未知なる乳酸菌の特性を解明し、健康づくりに役立てる。食の未来を改革する研究

乳酸菌の新たな生体調節作用やその機構について研究をしています。私の研究成果が疾病の予防や改善、機能性食品の創製につながることを期待しています。学生生活では、授業だけでなく、実験・実習など体験的に学ぶ機会も多くあります。勉強や研究は大変ですが、食を食べることが好きな仲間と楽しく大学生活を送っています。

履修スケジュール (2年次 後期:3ターム/4ターム)

	MON.	TUE.	WED.	THU.	FRI.
1-2	水産食品化学	食品衛生学	食品物理学		食料生産管理学
3-4		食品生化学	食品工学		
5-6	集中他				
7-8	食品物理学実験、食品工学実験、食品衛生学実験				
9-10					

専門科目

教員と研究分野



上野 聡教授
食品脂質の物性評価および動的性質の解明



川井 清司教授
食品の物理的性状変化の解明と品質(加工性、保存性、食感、消化性)制御



島本 整教授
食中毒細菌の可動性遺伝因子の機能および病原性関連遺伝子の解析



鈴木 卓弥教授
食品、栄養素による消化管機能調節作用の探索とその分子機構に関する研究



西村 慎一教授
微生物がつくる共生・抗生物質のケミカルバイオロジー



羽倉 義雄教授
食品の材料力学・電気物性を利用した新規加工・計測技術の開発



細野 賢治教授
青果物産地の形成・展開と環境変化の下での維持方策



矢中 規之教授
肥満など生活習慣病発症の分子メカニズムの解明と有効な食品因子の探索



小泉 晴比古准教授
医薬品を含めた食品成分の結晶化における物理的挙動の解明



Thanutchaporn KUMRUNGSEE 准教授
疾病予防作用を有する食品因子に関する研究



長命 洋佑准教授
食料生産をめぐる地域社会・資源利用・食文化に関する研究



中山 達哉准教授
食中毒菌の薬剤耐性獲得機構の解明および食品開発に応用できる有用微生物の探索



平山 真講師
海洋生物由来生理活性物質の機能解析とその有効利用



山本 祥也助教
食品や微生物の免疫調節作用の探索と応用に関する研究

卒業後の進路

企業等: アンデルセン、池田糖化工業、オタフクソース、コカ・コーラボトラーズジャパン、ニチレイフーズ、日本たばこ産業、日清オイログループ、丸大食品、マルハニチロ、山崎製パン など
公務: 岡山県、広島県、鹿児島県、松山市



生物生産学部の教員によるミニ講義

学問発見サイト「夢ナビ」(管理運営:株式会社フロムページ)では、生物生産学部の教員によるミニ講義がご覧いただけます。





分子農学生命科学プログラム

生物の機能を解明し、最先端のバイオテクノロジーを創成



生物の機能を利用したバイオテクノロジーは、私たちの暮らしや産業が環境と調和しながら発展していくために欠かせません。本プログラムでは、生物機能の原理について遺伝子やタンパク質の分子レベル、細胞レベルを中心に学び、食料や医療、環境問題の解決手段として生物機能を応用するための実践的な知識や技術を養うことができます。動物から植物、微生物までの幅広い生物を対象とした講義や専門性の高い卒業研究を通じて、①多様で洗練された生命現象の機能と意義について学び、②私たちの暮らしや産業に有用な酵素や抗体、薬剤の開発や、家畜や農作物の品種改良に用いられる遺伝子工学や細胞工学を修得することで、持続可能な社会の発展に貢献できる人材を養成します。

プログラムのポイント

POINT 01 目指せ！
生命科学のスペシャリスト

あらゆる生命現象の根幹とも言える分子細胞生物学の基礎から応用までを体系的に学ぶことができます。自然や人類の将来について深い知識と洞察力を持って考える、そんな生命科学のスペシャリストを目指します。

POINT 02 自由に興味を探求

専門性の高い教員による講義を通じて、生命科学の土台となる分子細胞生物学や免疫学の知識を身に付けます。動植物や微生物におけるタンパク質、遺伝子の幅広い研究の世界に触れることで、自身の興味にあった研究室を選べます。

POINT 03 生命科学で
社会にイノベーションを

生命科学の知識や研究で磨いた技術を活かして、ヘルスケア、環境、食に関わる産業に多くの人材が飛び立っています。化学、製薬、食品メーカー等の研究開発職につき、社会の課題解決にチャレンジしている先輩達があります。



在学生の声



西岡 瑠輝 (2024年3月卒業)
滋賀県立米原高等学校卒業

分子・細胞・個体レベルで生物の機能を学び、さまざまな機能がどのような仕組みで働いているのかを理解できることがこのプログラムの魅力です。私は現在、遺伝子組換え技術によって植物の成長に関わる遺伝子がどのような仕組みで働いているのか研究しています。目に見えないものを学ぶというのは複雑ですが、非常に面白いです。

履修スケジュール (2年次 後期)

	MON.	TUE.	WED.	THU.	FRI.
1-2		ゲノム科学I	高次生命科学	分子細胞生物学	ゲノム科学II
3-4					
5-6	集中他 分子農学生命科学実験I、分子農学生命科学実験II、分子農学生命科学実験III				
7-8					
9-10			分子農学生命科学 外書講読		分子農学生命科学 外書講読

専門科目



真田 優希 (2024年3月卒業)
広島県立広島国泰寺高等学校卒業

私たちの研究室では、マウスを用いた動物実験とDNAや抗体などを扱う実験を組み合わせ研究を進めています。自分が興味のある疾患をテーマにし、その疾患がどのような機構で起こっているのかを調べるための実験を組み立てます。免疫学についてさまざまな側面から理解を深めることができます。

履修スケジュール (3年次 前期)

	MON.	TUE.	WED.	THU.	FRI.
1-2	生体生物学		植物分子生物学	細胞工学	食品微生物学
3-4					
5-6	集中他 PBL型実験実習I、PBL型実験実習II				
7-8					
9-10					

専門科目

教員と研究分野



三本木 至宏教授
分子の姿・形を見て触って、生物のエネルギー変換の機構を解き明かす



鳥田 昌之教授
哺乳動物卵子の減数分裂と体外受精、初期胚の発生メカニズムの解析



中江 進教授
アレルギー疾患の発症機構の解明



西堀 正英教授
動物ゲノム解析、特に鳥類の分子進化学的研究及び有用遺伝子探索



堀内 浩幸教授
鳥類多能性幹細胞の基礎と応用に関する研究及び鳥類でのゲノム編集技術の確立と応用



大村 尚准教授
化学情報物質を媒介とした生物間相互作用や進化に関する研究



沖中 泰准教授
病原微生物が魚に病気をもたらす仕組みを研究する



田中 若奈准教授
植物の形態形成を制御する分子メカニズムの解明と育種への応用



船戸 耕一准教授
酵母の脂質動態と機能及び産業利用に関する研究



藤川 倫吉講師
植物の成長や機能性物質生産に関する分子生物学的研究



生谷 尚士助教
アレルギーに関与する細胞の動態解析



富永 淳助教
光合成制限要因の解明と応用



藤井 創太郎助教
極限環境に棲む生物を用いたバイオセンサー技術への応用展開



松崎 芽衣助教
鳥類の受精過程を制御するメカニズムの解明、ゲノム編集鳥類作出技術の開発と応用

卒業後の進路

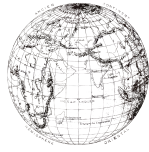
企業等：内田洋行、お豆腐工房いしかわ、四国銀行、日本食品分析センター、ホクト、ユニ・チャーム など
公務：農林水産省、植物検疫所、山口県、香川県、長崎県、広島市、山口市



生物生産学部の
教員によるミニ講義

学問発見サイト「夢ナビ」(管理運営：株式会社フロムページ)では、
生物生産学部の教員によるミニ講義がご覧いただけます。





国際生物生産学プログラム

グローバルに活躍できる人材育成のための英語による分野横断型教育



本プログラムでは、英語による教養教育科目や外国語を履修し、生物生産学部で展開されているすべての学問分野の基礎を築くだけでなく、国際的に活躍できる語学力を身に付けます。2年次後期からは、生物生産学部の幅広い学問分野の講義と実験実習をテーラーメイド型カリキュラム(分野別専門パッケージ科目)として履修し、生物生産学に必要な学識と技術を広く修得するとともに特定の専門分野の指導教員と討論しながら卒論研究に取り組み、その過程で問題を発見し、課題を解決し、そして成果を英語で表現する力を養います。また、海外協定校からの交換学生用の専門講義や海外協定校で実施される講義、実習及び課題研究(海外協定校で学ぶパッケージ科目)に取り組むことで、海外でも活躍できる能力を身に付けます。

プログラムのポイント

POINT 01 グローバルに活躍する能力を養うカリキュラムが充実!

英語による教養教育や交換留学生用の専門講義などを履修して、卒業論文の執筆や発表を英語で行います。実践的な語学力を身に付けながら生物生産学を学び、グローバルに活躍できる能力を磨きます。

POINT 02 留学を通じて国際性を育てる!

海外協定校への1セメスター(約5カ月間)の留学により、充実した海外生活を体験します。協定校が開講する英語による専門科目を受講し、自ら立案する「国際課題研究」を実施することで、グローバルな体験を通して、高い国際性を身に付けます。

POINT 03 人材育成における強み

昨今、多くの日本企業が海外進出に力を入れており、実践的な英語力や高い国際性を持つ人材が求められています。本プログラムの卒業生の中には、国際的な課題に取り組んだり、海外で活躍している先輩達があります。



在学生の声



国際的な視点から農業分野を理解する一タイ留学で得た唯一無二の経験と英語学習のモチベーション

平野 菜葉 (2023年3月卒業)
宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校卒業

農業分野について国際的な視点から理解を深めたいと考え、本プログラムへの所属を決めました。初めは海外経験がなくても授業についていけるのか不安でしたが、親身に相談に乗ってくださる先生方の支援のおかげで他の学生とは違う唯一無二の経験ができました。特にタイ留学で受けた刺激は、帰国後の英語学習のモチベーションにもつながっています。

履修スケジュール(4年次 前期/1ターム、2ターム)

	MON.	TUE.	WED.	THU.	FRI.
1-2				Animal Science and Technology	
3-4		Economic Tropical Horticultural Crops	Introduction to Tropical Horticulture	Animal Science and Technology	Insect Science
5-6		Economic Tropical Horticultural Crops	Introduction to Tropical Horticulture		Insect Science
7-8	Thai Conversation in Everyday Life I			集中他	
9-10	Thai Conversation in Everyday Life I			Graduate ThesisⅢ、国際課題研究	

■ 専門科目

卒業後の進路

進学先: 広島大学、京都大学、横浜市立大学



最先端の生物生産学を学び、研究する

水圏統合科学プログラム
応用動物植物科学プログラム
食品科学プログラム
分子農学生命科学プログラム
国際生物生産学プログラム

生物生産学部へ GO!

施設紹介

中国四国地域における唯一の教育施設である農場や練習船「豊潮丸」をはじめ、日本の天然記念物に指定されている日本鶏品種を飼育・増殖するための施設など、生物生産学部の学修で利用する施設の紹介をします。



農場

農場では、教育と研究のために乳用牛、肉用牛、羊、山羊を飼育しています。中国四国地域で唯一の酪農教育施設であり、国内の大学では唯一、搾乳ロボットなどを導入したスマート牛舎を有しています。このスマート牛舎は教育研究環境の向上を目的としてネーミングライツを実施しており、さらに酪農教育の拠点として、教育関係共同利用拠点にも認定されています。他大学の学生と共に動物の命を介して人々に食料を提供することを学べる『酪農教育ファーム』としての教育効果も高く評価されています。



牛乳でスマイルプロジェクト
農場は、農林水産省「牛乳でスマイルプロジェクト」に参画し、酪農業を応援しています。



1 精密実験圃場

圃場、ガラス室・網室・温室、温度・湿度を精密に制御できるグロスキャビネットなどの施設があります。



3 食品製造実験実習棟 (食品実習工場)

畜産物や水産物の加工、食品の製造技術や機能開発に関する高度な実践教育を行う場は、広島大学が中国地方の中で最も充実しています。食品製造に関する高度な実践教育に加え、食品の安心・安全の確保、食品の新規機能開発、生物資源からの機能性素材開発等に関する基盤的な教育と研究を行っています。



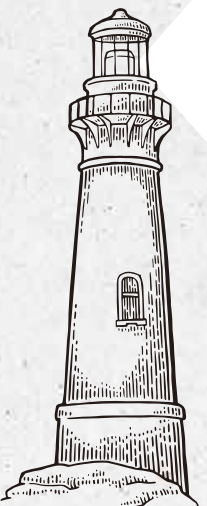
2 日本鶏保護増殖舎

日本鶏に関する国内最大規模の研究拠点となっており、国の特別天然記念物「土佐のオナガドリ」を筆頭に、日本鶏品種を飼育・増殖するための施設です。



4 家畜環境制御実験棟

食資源動物の新規機能を開発し、食料として安全な動物を効率的かつ持続的に生産するための先端技術の開発を目的とした施設です。



練習船「豊潮丸」・呉基地

2006年度に完成した第4代目「豊潮丸」は、電気モーターでスクルーを動かす「全電気推進システム」を採用した環境にやさしいエコシップです。中国四国地域で唯一の大学附属の練習船で、他大学との共同研究を実施するほか、乗船実習などの教育航海や研究調査航海に活用されています。

第4代目豊潮丸の概要			
全長：40.5m	幅：8.5m	深さ：3.7m	総トン数：256トン
速力：10ノット(約18.5km/h)		年航海日数：約180日	
船員：12名	乗船定員：32名	航続距離：2,900マイル(約5,370km)	



水産実験所

水産実験所は、瀬戸内海有数な大規模干潟と藻場に恵まれた、豊かで健全な里海づくりを目指す海域フィールド教育・研究および地域貢献を担う水産実験施設です。

留学・国際交流



生物生産学部独自の海外プログラムや
広島大学で実施している留学・研修プログラム、
広島大学キャンパス内でできる国際交流イベントを紹介します。

留学

交換留学プログラム

AIMS/PEACEプログラム

ASEAN諸国及び日本が共同で実施している学生交流プログラム

広島大学に在籍しながら、交換留学生としてASEAN協定大学に1セメスター間留学します。
英語による専門科目の講義を受講するほか、自ら立案する国際課題研究を実施します。

- 派遣先：カセサート大学(タイ) カセサート大学HP <https://www.ku.ac.th/en/community-home>
- 対象者：学部生
- 派遣人数：10名程度
- 派遣期間：1セメスター
- 派遣内容：カセサート大学の農学部所属し、熱帯農学について英語で学びます。
- 単位認定：カセサート大学では合計13単位以上を修得し、修得した単位はすべて広島大学において単位認定を行います。
- 授業料：カセサート大学に別途授業料を納める必要はありません。
- 奨学金：要件を満たす者にはJASSOからの奨学金(返済不要の交付型)が支給されます。



導入型プログラム

海外生物生産学演習

熱帯農学等、専門講義を中心に実験実習および先端研究施設見学、食品製造加工・流通拠点の仕組みまで総合的に学修します。

- | | | |
|---------|---------------|---------------|
| プログラム概要 | ●派遣先：タイ・フィリピン | ●対象者：学部2～4年次生 |
| | ●派遣人数：10名 | ●派遣期間：10日間程度 |



STARTプログラム (Study Tour Abroad for Realization and Transformation)

日本と異なる文化・環境を体験することで、国際交流や長期留学への関心を高めることを目的とするプログラムです。より多くの学生が参加できるよう、参加費用を大学が補助し、経済的負担を軽減しています。また、現地研修では広島大学の教職員が学生を引率するため、安心して留学に臨めます。

- | | |
|---------|---|
| プログラム概要 | ●派遣先：台湾・インドネシア・オーストラリア・アメリカ・ベトナム・ニュージーランド・タイ等 |
| | ●対象者：学部1～3年次生(事前学習・現地研修・事後学習のすべてに参加必須) |
| | ●派遣人数：各コース10～30名 |
| | ●派遣期間：長期休業中8日間～1カ月間程度 |

学部1年生向け特定プログラム

Global Peace Leadership Program

「平和を希求する国際教養力を備えたグローバル人材」の育成を目的としたプログラム

所属する学部・学科等を卒業するためのカリキュラム(主専攻プログラム)と並行して、国際的教養人に必要となる英語力、リーダーシップ力や平和への理解等を養うためのカリキュラムを履修し、海外留学を通して国際的教養力を育む特定プログラムです。また、留学費用の一部を大学が支援します。

※本特定プログラムに登録申請するには、TOEIC®スコアで概ね600点もしくはこれに相当する英語コミュニケーション能力を備えていることが必要
※学部ごとに推奨する派遣先、派遣時期等を設定していますが、他の留学先を各自で選ぶことも可能

- | | | | |
|---------|-------------|-------------|------------------|
| プログラム概要 | ●対象者：学部1年次生 | ●派遣人数：20名程度 | ●募集期間：1年次(4月～5月) |
|---------|-------------|-------------|------------------|

※上記のほか、大学としても多数の留学プログラムを用意しています。

■留学に関する最新の情報を掲載しています。 https://www.hiroshima-u.ac.jp/international/overseas_study



わたしの留学体験記「短期留学で学んだこと」

飯田 智哉 国際生物生産学プログラム(2024年3月卒業)
AIMS/PEACEプログラム 派遣先：タイ/カセサート大学

CASE 1

私はタイのカセサート大学に5か月間留学し、タイの農業や文化について英語で学びました。また、タイでの生活や外国人学生との交流を通して、今まで触れたことなかった様々な価値観や考え、景色に出会いました。その中で、世界は自分の想像以上に広く、自分が知っていたのは、そのほんの一部分に過ぎなかったと痛感しました。インターネットやテレビで欲しい情報が簡単に手に入るこの時代、何でも知った気になっていたこと、実際に行き、見て、体験してみないとわからない、感じられないことがたくさんあることに気づかされました。



永井 亜瑚 応用動植物科学プログラム(2024年3月卒業)
海外生物生産学演習 派遣先：タイ/カセサート大学

CASE 2

私は海外生物生産学演習でタイに行きました。初めての海外での生活に不安がありましたが、困難を楽しむ姿勢で積極的に取り組みました。タイの文化や技術、異文化コミュニケーションなど、多くのことを学ぶことができた一方で、語学力やプレゼンテーション能力など、自分に足りない能力を身に染みて感じました。新たな学びと課題を見つけると共に、海外での体験を経てより広い視野を得ることができました。タイでの経験を活かして、これからの大学生活をより有意義なものにしていきたいと思っています。



学内でも国際交流

国際交流というと留学と思いがちですが、学内でも国際交流の機会はたくさんあります。キャンパス内で気軽に国際交流を始めて見ませんか。

International Luncheon

ランチを食べながら留学生と日本人学生が交流。使用言語は自由で、語学力に関わらず気軽に参加できます。

International Party

日本人学生と留学生が、リラックスした雰囲気の中で交流を楽しむことを目的とするイベント。毎回、多彩なゲームや気軽に参加できるテーマが用意されており、気軽に交流を楽しめます。

International Night (毎月1回)

留学生が出身地の文化や歴史を紹介してくれます。日本人学生と留学生がお互いの文化について理解を深めることを目的とするイベントです。

NOIE (Network of International Exchange)

国際交流に関心のある学生へ、学校や地域の国際交流活動に参加するための情報を提供。学部も学年もさまざまな留学生と日本人が登録しており、それぞれの興味や関心に合わせて活動に参加できます。



ライフサポート

学習・生活・経済面において、学生のニーズに応える支援体制の充実を図り、学生一人ひとりが実りあるキャンパスライフを送るためのさまざまなアプローチを用意しています。

学習サポート

チューター制

学生一人ひとりを担当する教員(チューター)を学科・コースごとに複数配置し、入学時から卒業まで、学習の悩みや学内施設の利用など大学生活全般に関するサポートを行います。困ったことがあれば、まずは気軽にチューターに相談してみましょう。



オフィス・アワー

教員が特定の曜日・時間を定めて研究室に在室し、学生の質問や相談に応じるための時間です。学生はその時間内に自由に訪問し、教員が個別に対応します。授業内容に関する質問はもちろん、教員の人柄や研究テーマなどに深く触れる絶好の機会です。

学生プラザ

学生の利便性を考慮し、主な学生支援窓口を一カ所にまとめた施設です。また学生用フリースペースを設け、留学生を含めた学生全体の交流の場としても活用されています。



■ピアサポートルーム(学生プラザ4F)

学生による学生のための相談室です。専門のカウンセラーから指導を受けた学生が学生(=ピア)の大学生活におけるあらゆる疑問や悩みについて秘密厳守の上でじっくりと話を聴きます。また、必要に応じて学内外の専門機関の紹介も行います。



■グローバルキャリアデザインセンター(学生プラザ2F)

専任教員、職員、キャリア相談員などのスタッフが、各学部・研究科等と連携を図りながら、留学生を含むすべての学生、若手研究者のキャリアデザインや就職活動を総合的にサポートしています。グローバルキャリアデザインセンターでは、学生の進路・職業選択を支援する多彩な活動を展開しています。



- ・キャリア教育科目の開講
- ・各種ガイダンス/セミナーの開催
- ・産官学連携による実践プログラムの開発
- ・個別相談
- ・企業や求人に関する資料・情報の提供

4F 保健管理センター(メンタルヘルス部門・カウンセリング部門)
ピアサポートルーム
多目的室

3F 学生生活支援グループ
留学交流グループ
教育支援グループ
教育推進グループ

2F グローバルキャリアデザインセンター
アクセシビリティセンター
キャリア支援グループ
留学交流グループ

1F 学生用フリースペース(利用可能時間/平日8:30~19:00)
留学アドバイザーブース
総合受付
教育学習支援センター

■アクセシビリティセンター(学生プラザ2F)

修学上のアクセシビリティ(利用しやすさ、参加しやすさ)を支援しています。アクセシビリティリーダーの育成、アクセシビリティに関する助言・提案、障害のある学生への合理的配慮に関する助言・手続き・支援リソースの提供等を行っています。

広島大学はこのような修学支援を行っています。

授業中の支援…コミュニケーション配慮、代筆、筆記通訳、実技の補助等

教材支援…拡大・点訳・音訳・字幕付与等

学内支援…移動支援、個別相談、学習支援、履修支援等

移行支援…就学移行、復学移行、就労移行に関する支援等

■教育学習支援センター(学生プラザ1F)

日頃の学修で悩んでいること、困っていること、誰かに話して良いかわからないことなどを相談することができます。相談はセンターの学生スタッフ(大学院生等)が応じます。

また相談窓口では、教養教育科目の数学・物理・化学・英語を対象に、学生スタッフ(大学院生等)が学習の方法や履修上の問題点について、その解決策や糸口などを見出すための助言も行っています。



中央図書館

■電子資料/サービス

オンラインで読むことができる電子ジャーナル・ブック、新聞記事や論文を検索できる各種データベースが利用できます。また学習や研究に必要な資料・情報などの入手を、図書館スタッフがサポートします。

■ライティングセンター

授業の課題やレポートなど、文章の書き方で困った学生の相談に対応しています。文章指導の専門的な研修を受けた大学院生のチューターが、対話やブレインストーミングを通して、より分かりやすい文章を作成できるようにサポート。英語論文の相談も受け付けています。



西図書館



東図書館

図書館

東広島キャンパスには3館あり、全国有数の規模を誇ります。パソコンからの指示によって本を自動的に取り出せる「自動書庫」も備えています。また江戸時代から現在までの教科書コレクションをはじめ、数多くの貴重な資料を所蔵しています。

■学修支援スペースBIBLA(ビブラ)

グループワークやディスカッション、プレゼンテーションの練習ができるスペースや、インターネット(Wi-Fi)を使って自習ができるスペースなどがあります。自由に使える移動式のホワイトボードや図書資料を広げてもゆったり使える書斎のようなデスクが人気です。

■特別コレクション

中央図書館には、特別コレクションとして個人文庫、特別集書、大型コレクション、寄託資料等の貴重な文献を収蔵しています。これらの一部はデジタルコレクションとして電子化して公開しています。



■本館

広島大学の紹介や、貴重な化石・剥製、地域の環境や文化に関する資料を展示する総合博物館の中心施設で、インフォメーションセンターの役割も担っています。

■サテライト館

各学部やセンターの専門的な研究内容を展示・紹介しています。埋蔵文化財調査部門・生物生産学部・理学部・文学部・中央図書館・両生類研究センターの6カ所にあります。



総合博物館

広島大学総合博物館は、本館を中心にキャンパス内に点在するサテライト館とそれらをつなぐ「発見の小径(東広島キャンパスの広大な敷地を利用した自然散策道)」で構成した、キャンパスまるごと博物館です。常設展示の他に、企画展やフィールドナビ(野外観察会)などのイベントも開催しています。



■発見の小径

四季折々の自然の移り変わりを楽しむとともに、キャンパス内に生息する絶滅危惧種を含む多様な生物や、先史時代以降の多数の遺跡を見ることができます。

学生情報の森 もみじ

履修登録や成績確認などの修学関連情報や、進路・就職のサポート情報はもちろん、イベント・サークル活動など、広大生に必要な情報を集めたポータルサイトです。

- ・休講/補講などの通知
- ・教員や事務室からのお知らせ
- ・求人情報や企業説明会の開催日程
- ・先輩学生の就職活動アドバイス
- ・学生が開催するイベントやサークル活動



学内ネットワークサービス

新入生には、入学と同時にIDとメールアドレスが付与され、「もみじ」やオンライン学習支援システムなど、学内のさまざまなサービスを利用することができます。キャンパス内には1,000を超える無線LANアクセスポイントが設置されており、講義室、図書館、食堂などから学内ネットワークに接続してサービスを利用することができます。

必須ソフトウェアの提供

パソコンを使用する上で必要となる「Microsoft Office」「ウイルス対策ソフト」などを、個人所有のパソコンに無料でインストールできます。

ノートパソコン必携制度

広島大学ではノートパソコンの必携制度を実施しており、教員の指示があった場合に持参できるよう、あらかじめ各自で準備します。「大学教育入門」などの授業での活用をはじめ、講義レポートの作成や論文作成等、数多くの場面でパソコンとインターネットを利用します。



広島大学生協西2食堂



la place (ラ・プラス)



三河屋珈琲 (ミライクリエ内)

食堂・カフェ・レストラン

キャンパスの食堂では、一人暮らしの学生の食生活を考慮して、食材・栄養バランス・おいしさにこだわりながら、手ごろな価格のメニューを用意しています。またキャンパス内には、軽食やドリンクを楽しめるカフェや喫茶スペース、コースランチメニューのあるレストランも設置しています。

広島大学内郵便局

珍しい大学キャンパス内の郵便局として、1992(平成4)年に開局。ATMのほか、郵便、貯金、保険を取り扱っています。



保健管理センター

■定期健康診断

毎年4月から全学生を対象に健康診断を実施します。受診者には、健康診断証明書を発行します。

■診療・健康相談

・診療

医師が診察後、処方あるいは他医療機関を紹介します。

・健康相談

身体の健康上の問題・悩みや、食生活・運動・禁煙のことなどについて、医師・保健師・看護師が相談に応じます。

・カウンセリング/学生相談

学生生活に関する悩みについて、臨床心理士が相談に応じます。

・メンタルヘルス相談

メンタルヘルス上の諸問題について、精神科医師が相談に応じます。



コープショップ

コープショップでは、文具、書籍、日用品、食品などの販売や旅行チケットの手配など、さまざまなサービスを提供しています。組合員割引により、定価よりも安く購入できる商品が数多くあります。



学生教育研究災害傷害保険(学研災)

授業や学校行事、サークル活動、通学、大学構内でけがをした場合に、補償が受けられます。本学では、在学期間中の保険料を大学で負担し、全学生が加入しています。この他にも、学研災付帯賠償責任保険、医学生教育研究賠償責任保険、学研災付帯学生生活総合保険を取り扱っています。

学生宿舎

池の上学生宿舎は、東広島キャンパスに隣接し、通学に便利な場所にあります。プライバシーに配慮し、全室が個室ですが、共用施設などで国内外の学生と助け合いながら共同生活を営むことを通して、集団生活・国際交流の場としての性格も併せ持つ学生宿舎です。

・寄宿料(月額)

4,700円～15,000円(共通経費別)



アパート・マンション

東広島市内には、本学が学生のために経営をお願いしている広島大学指定下宿(アパート・マンション等)が約8,000室あります。東広島市内の家賃は25,000円～55,000円程度(共益費込み、1K～1DK)です。8畳の洋室にキッチン、浴室、トイレ、押入、ベランダがついた1Kタイプの2階建てアパートが主流です。

入学料および授業料

※在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定後の授業料を支払うことになります。

入学料(入学手続き時に支払い)

282,000円

授業料(4月・10月に半期分を支払い)

年額535,800円

高等教育の修学支援新制度

給付奨学金、入学料・授業料減免

令和2年4月から、高等教育の修学支援新制度が始まり、本学もこの制度の対象校となっています。この制度は、世帯の所得や学業成績に応じて、入学料・授業料の減免および給付奨学金を受けることができます。



広島大学独自の給付型奨学制度

学力が優秀でありながら、経済的理由により大学進学が困難な人を支援するため、独自の奨学制度を設けています。

広島大学フェニックス奨学制度

- 採用人数…新入生15名程度
- 支援内容…○奨学金給付(月額10万円)
 - 入学料全額免除
 - 在学中の授業料全額免除
 - 本学の大学院に進学する際は、本学が定める基準を満たす場合、奨学生として継続支援可能
- 申請資格…総合型選抜Ⅱ型、一般選抜(前期日程)または学校推薦型選抜Ⅱ型の志願者のうち、①学力の基準(大学入学共通テスト得点が、志願する学部・学科等の大学入学共通テスト配点合計の80%以上)および②経済的困窮度の基準をともに満たす人

広島大学光り輝く奨学制度

- 採用人数…在学生(3年次生)若干名
- 支援内容…○在学中(3年次以降)の奨学金給付(月額10万円)および授業料全額免除
 - 本学の大学院に進学する際は、本学が定める基準を満たす場合、奨学生として継続支援可能
- 申請資格…成績優秀者で、経済的困窮度の基準を満たす人物

奨学金

経済的理由により、修学の継続が困難な学生は、奨学金貸与または給付制度に申請することができます。奨学金には、「日本学生支援機構」、「地方公共団体」、「民間財団」によるものがあります。本学では、現在約30%の学生が日本学生支援機構奨学金の貸与を受けています。

日本学生支援機構貸与奨学金

第一種(無利子)

- 自宅通学 20,000円・30,000円・45,000円から選択
- 自宅外通学 20,000円・30,000円・40,000円・51,000円から選択

第二種(有利子^{*})

- 20,000円～120,000円(1万円単位)から選択

※卒業後に、貸与額に対して利子(上限は年3%変動利率で、利率固定方式・利率見直し方式を選択)がつきます。

その他の奨学金

広島大学では、地方公共団体や民間財団による奨学金を取り扱っています。受給資格や貸与・給付金額などの情報は、本学ウェブサイトをご覧ください。
<https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/life/keizaishien/shogakukin.html>



入学試験情報

生物生産学部では、広島大学が掲げる「世界トップレベルの特色のある総合研究大学」という目標に沿って教育目的・目標を踏まえたアドミッションポリシーを明示し、個性を尊重する多様な選抜を実施しています。
 ※最新の情報は大学ホームページでご確認ください。

選抜区分		評価項目	令和7年度入学試験募集人員	実施時期	令和8年度入学試験(令和7年度実施)以降の変更点	
一般選抜	前期日程	<ul style="list-style-type: none"> ●大学入学共通テスト ●個別学力検査(数学、理科、外国語) 	65名 ^{*1}	2月	^{*1} 募集人員を67名に変更	
	後期日程	<ul style="list-style-type: none"> ●大学入学共通テスト ●面接 	10名 ^{*2}	3月	^{*2} 募集を停止	
光り輝き入試 総合選抜型	II型	セミナー受講型	<ul style="list-style-type: none"> ●第1次選考：出願書類(調査書及び自己推薦書) ●第2次選考：セミナー受講によるレポート提出、面接 <ul style="list-style-type: none"> ・セミナー/アドミッション・ポリシーに沿った特定のテーマに関するセミナーを受講し、趣旨の理解力と問題展開の能力を評価するためのレポートを作成します。 ・面接/志望理由の明確さ、学習意欲、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力などを重視します。 ●最終選考：大学入学共通テスト(合格基準点の設定あり) 	10名	11月	—
		課題研究評価型	<ul style="list-style-type: none"> ●第1次選考：出願書類(調査書、自己推薦書及び課題研究概要) ●第2次選考：課題研究発表、質疑応答 これまで取り組んできた課題研究をもとに10分以内で発表をしてもらいます。その後、課題研究発表の内容をもとに質疑応答を行います。 ●最終選考：大学入学共通テスト(合格基準点の設定あり) 	3名	11月	—
		フェニックス型(中高年者対象)	<ul style="list-style-type: none"> ●面接 	若干名	11月	—
		国際バカロレア型 (国際バカロレア資格取得者対象)	<ul style="list-style-type: none"> ●出願書類 ●面接^{*4} 	若干名 ^{*3}	11月	^{*3} 募集人員を3名に変更 ^{*4} 評価項目にセミナー受講によるレポート提出を追加
		I型 【令和8年度開始】	—	—	—	課題探究活動を特に評価する入試方法をさらに発展させた、大学入学共通テストを課さない、新たな選抜方法を新設。詳細は、「広島大学 入試情報」でご確認ください。
		学校推薦型選抜 II型 (水産、農業及び食品製造などに関連する 高等学校等の在籍者対象)	<ul style="list-style-type: none"> ●第1次選考：出願書類(調査書、推薦書及び志望理由書)、 セミナー受講によるレポート提出、面接 <ul style="list-style-type: none"> ・セミナー/アドミッション・ポリシーに沿った特定のテーマに関するセミナーを受講し、趣旨の理解力と問題展開の能力を評価するためのレポートを作成します。 ・面接/志望理由の明確さ、学習意欲、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力などを重視します。 ●最終選考：大学入学共通テスト(合格基準点の設定あり) 	2名	11月	—
	学部第3年次編入学試験 (高等専門学校や短期大学卒業(見込み)者、 4年制大学に2年間以上在学し62単位以上 修得(見込み)の方等を対象)	<ul style="list-style-type: none"> ●総合問題 ●英語外部検定試験の成績証明書等 ●面接 	10名 ^{*5}	6月	^{*5} 募集人員を5名に変更	

入試情報の詳細は、こちらからご覧ください。



進路・就職

広島大学では、学生のキャリア支援・就職支援を行っています！

入学直後と卒業前年次から始まる2本立てのキャリア教育&支援(4年制学部のキャリア教育・支援プログラム例)

	1年次	2年次	3年次	4年次
進路・職業を考えるプログラム	「大学教育入門」での講義(必修) 入学直後から、学部1年次生の必修科目の「大学教育入門」において、キャリアデザインのための講義を実施します。			
	初年次インターンシップ(社会体験) 学部1年次生全員が、地元企業・団体などでのインターンシップ、ボランティアを体験します。			
	キャリア教育科目 自己表現力や論理的思考力、課題解決能力を培う講義や演習を通してキャリアデザインに必要な力を獲得します。			
	課外講座 公務員試験・教員試験・TOEIC®、簿記などの各種試験・資格対策講座を学内で受講できます。			
			就職ガイダンス・セミナー 実践的かつタイムリーなテーマでガイダンスやセミナーを実施します。	
			業界セミナー、合同企業説明会 企業をキャンパスに招き、セミナーや合同企業説明会を学内で開催します。	
			就活支援ツアー 首都圏・関西圏で就職活動をする学生を対象に、合同企業説明会への参加や現地で働く卒業生との懇談会を行います。	
			イノベーション演習 キャリアデザイン講座	
				キャリア相談・就職相談 教員やキャリア相談員による個別キャリア相談や、就職活動に必要な書類(エントリーシート、履歴書など)について、個別に指導する就職相談を実施します。

グローバルキャリアデザインセンター(学生プラザ2F) ※P23参照

グローバルキャリアデザインセンターでは、ガイダンスの開催やキャリア相談、「もみじ」や「キャリアタスUC」での情報提供など、さまざまな形で支援をおこなっています。積極的に活用し、自身の就職活動に役立ててください。個別の相談も応じています。 ●開室時間/平日 8:30~17:15(お盆・年末年始・祝日を除く)

進路や就職について考えたい

キャリアデザインについて考えたい

就職の情報やアドバイスがほしい



生物生産学部 OB・OG からのメッセージ

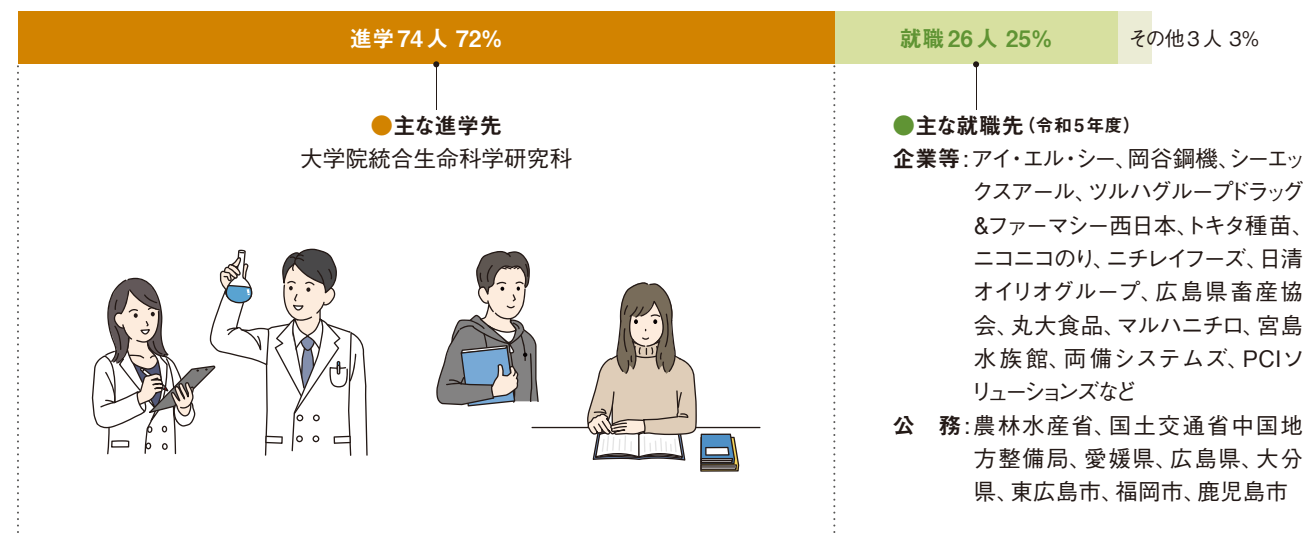
赤松 大暢 あかまつ ひろのぶ 日本貿易振興機構 Director, Agriculture & Food (農林水産省からの出向)

私は当初別の大学の理学部に入学していたのですが、大学2年生の時、将来の職業をより具体的に意識するにつれ、昔からの夢であった動物に関係する職に就きたいという想いが具体化してきたと同時に、畜産学が学べる広島大学生物生産学部が編入学制度を開始したという情報を得て、編入学試験を受験し、3年生進学時に同学部編入することができました。私が在学したのは2年間だけでしたが、生物生産学部では、素晴らしい教授陣の下で、動物生産に関することを網羅的かつ効果的に学ぶことができました。私は現在、農林水産省の畜産部局を中心に、関連団体や地方自治体での勤務など、多様なキャリアを形成することができていますが、これも生物生産学部で学んだ動物生産に関する知識が全ての基礎となっています。

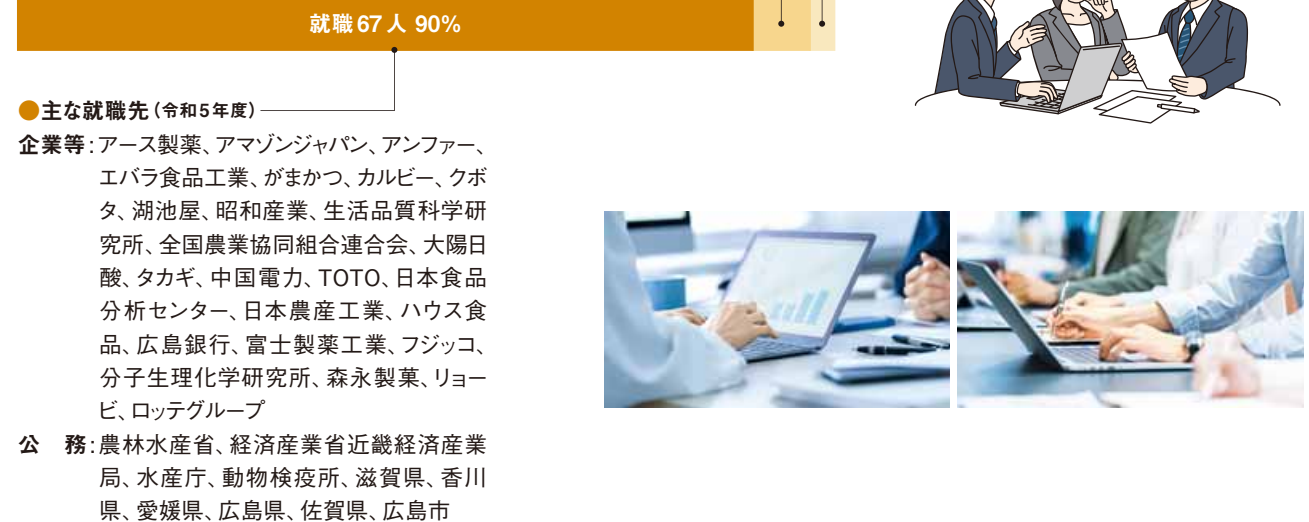


生物生産学部では、卒業生の多くが大学院に進学し、就職先は多岐分野にわたっています。

学部卒業生の進路(令和5年度/全103名)



大学院博士課程前期修了生の進路(令和5年度/全74名、留学生を除く)



※他大学からの入学者も含まれます。

中嶋 りえ なかしまりえ 株式会社永谷園 研究開発部

私が食品科学コースを選んだのは、食べる事が好きで、また様々な分野の講義を受ける中で最も興味を持った分野だったからです。講義では、食に関する幅広い知識を学び、研究室では食品由来の成分が腸や皮膚のバリア機能を調節する作用について研究しました。食品メーカーに就職して3年間は、商品企画とマーケティングを経験し、今年からは商品開発に携わっています。様々な原料を配合し、試行錯誤しながら理想の味をつくる仕事です。講義と研究を通して得た知識や経験は、今の仕事でも活かしています。元々就職先の希望は全く無い私でしたが、研究等を通して食への興味が強くなり食品メーカーを志したように、生物生産学部は幅広い分野から自分のやりたい事を見つけられる学部だと思います。



広島大学生物生産学部紹介動画

生物生産学部がわかる動画を紹介しています。



水圏統合科学プログラム 応用動植物科学プログラム 食品科学プログラム 分子農学生命科学プログラム 国際生物生産学プログラム



<https://www.hiroshima-u.ac.jp/seisei/brochure/video>



生物生産学部紹介 (短編・長編)



“生きる、生まれるを科学する”
生物生産学部とは？



生物生産学部附属農場



生物生産学部附属練習船「豊潮丸」



<https://gsbstop.hiroshima-u.ac.jp/interview/>



その他動画 | イベント動画 | 学生インタビュー | 卒業生インタビュー | 「夢ナビ」生物生産学部の教員によるミニ講義 | Web公開授業

Graduate School

大学院統合生命科学研究科

プログラム

生物工学プログラム
生命環境総合科学プログラム
生命医科学プログラム

食品生命科学プログラム
基礎生物学プログラム

生物資源科学プログラム
数理生命科学プログラム

統合生命科学研究科は、理学、工学、農学、医学の各分野において細分化が進んでいる生物学・生命科学を有機的につなぎ、次代を担う学生が、深掘りするだけでなく俯瞰的な知識と能力を身につけることができる研究科です。本学部の進学者のほとんどは、食品生命科学プログラムが生物資源科学プログラムに進学します。

食品生命科学プログラム

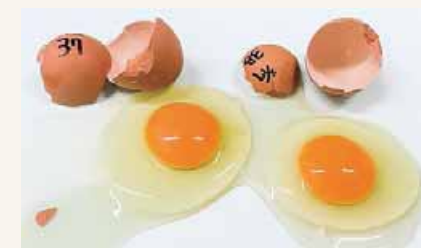
安全性と機能性に優れた食品を開発するためには、食品科学をはじめ、分子生物学から環境科学に至るまでの基礎及び応用生命科学を融合的かつ俯瞰的に理解することが必要です。また食品の高付加価値化を図るとともに、生物圏環境を見据えた食料の安定的かつ持続的な供給を目指すには、食資源を分子・細胞・個体・集団の視点から多角的に捉えることが求められます。「食品生命科学プログラム」では、食品科学・応用生命科学の学問分野をコアとして教育・研究を推進することで、食品開発や人間生活に応用される農業、有用生物の機能解明や開発・生産管理等の分野で貢献できる人材を育成します。

最新の研究

鶏卵の主要なアレルギー原因物質を
ゲノム編集により除去

堀内浩幸教授

広島大学で開発されたゲノム編集技術 (Platinum TALEN) を用いて、鶏卵の中のアレルギーを引き起こすタンパク質 (アレルゲン) の1つ「オボムコイド」を作らないニワトリの作出に成功しました。また、このゲノム編集により目的のアレルゲン遺伝子以外への影響がなく、安全であることも証明しています。現在は、病院での臨床研究が進んでおり、卵アレルギーのある人に実際に加工された鶏卵を食べていただき、安全性の確認が進んでいます。卵アレルギーのある人の生活の質を改善することを目指して、研究・開発に取り組んでいます。



生物資源科学プログラム

動植物科学と水産海洋学の学問分野をコアとした教育・研究を行います。生物資源である産業動物、植物、そして水域生物は、食料資源として人間生活に必須です。生物資源を持続的に生産するには陸域と水域の生物資源群の相互関係を総合的に理解し、生物圏における多様性と環境調和を維持しなければなりません。本プログラムでは、生物圏を俯瞰した生物資源の機能開発、生産機構の解明、先進技術の開発に係る教育・研究を行い、品質と安全性に優れた食資源の増産及び安定的な供給や、自然環境と人間生活の豊かさを向上させるための生物資源の応用等の分野で貢献できる人材を育成します。

最新の研究

太陽光パネルを利用した揚水装置の開発
～牡蠣増産とSDGsへの貢献～

小池一彦教授

太陽光パネルとシンプルな揚水ポンプを組み合わせ、海底水を毎時10トン揚水できる装置を開発しました。この装置を牡蠣 (カキ) 養殖筏に設置し、栄養や牡蠣の餌となる植物プランクトンを豊富に含む海底水を連続して揚水したところ、数カ月後に牡蠣むき身重量が50%以上上昇しました。無給餌で行われ、海の浄化効果もある牡蠣養殖は、もっとも望ましい食料生産の一つとも言われ、さらにその殻 (炭酸カルシウム) に多量の二酸化炭素を固定化することから、本装置による牡蠣増産は、さまざまなSDGsに直結します。



東広島キャンパスマップ

約250万㎡もの広さを持つ東広島キャンパスは、広島県の中央部に位置する東広島市にあります。広島大学の中心となるキャンパスです。



福山通運小丸賑わいパビリオン
 学生のための学生の起業活動や集会、自習など、多目的施設として、2019(令和元)年に完成しました。広島大学では、本施設を「賑わい創出拠点」として位置づけ、学生の修学環境の充実や自発的な活動を支援する場として役立っています。

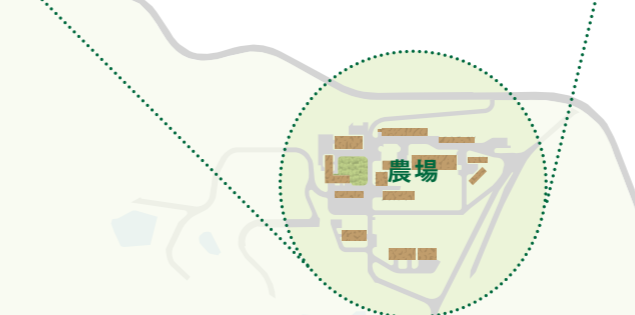


la place
 フランス語で「広場」を意味する「la place」(ラ・プラス)。天井と壁面から自然光が差し込む明るい店内は、北欧の雰囲気漂うカフェ&ベーカリー。無線LAN対応で、ノートPCやタブレットを持ち込めます。



フェニックス国際センター「MIRAI CREA (ミライクリエ)」
 2021(令和3)年10月に開館した「MIRAI CREA (ミライクリエ)」は、イノベーションを創出する国際的拠点の役割を果たしています。1Fには気軽に立ち寄れるカフェや多目的スペースを備えています。

- ① 講義・管理棟 C
- ② 実験・研究棟 A
- ③ 実験・研究棟 B
- ④ 食品製造実験実習棟
- ⑤ 家畜環境制御実験棟
- ⑥ 作物調査試験棟
- ⑦ 日本鶏保護増殖舎
- ⑧ 精密実験圃場



サタケメモリアルホール
 大学創立50周年を記念して建設されました。グランドピアノをイメージした外観が美しいホールです。学会などの学術交流をはじめ、音楽や演劇などの芸術活動、地域の方々との交流など、多目的に利用されています。



スペイン広場
 総合科学部近くにある半円形の広場で、名前の由来はイタリア・ローマにあるスペイン広場。天気の良い日は階段に座ってランチをする広大生が多く、音楽系サークルのライブが行われる日も。日々大勢の学生が行き交う東広島キャンパスの賑わいスポットです。

お問い合わせ先

広島大学生物生産学部

〒739-8528 広島県東広島市鏡山1丁目4番4号 TEL: 082-424-7915 FAX: 082-424-6480
 広島大学生物学系総括支援室(学士課程担当) E-mail: sei-gaku-sien@office.hiroshima-u.ac.jp

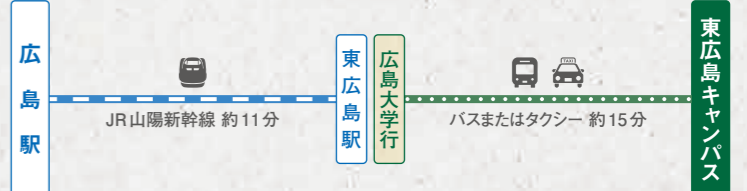


※支援室へのメールはこちらから！

生物生産学部 アクセス

新幹線をご利用の方

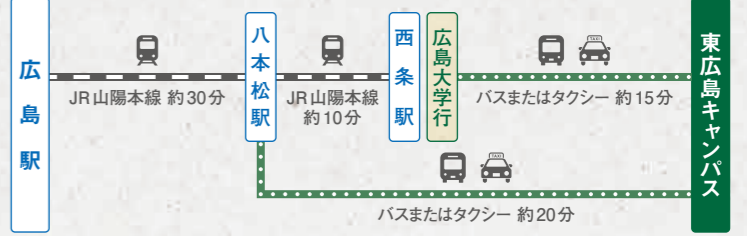
■「JR広島駅」から「JR東広島駅」を経由して大学へ



※JR東広島駅には、新幹線こだまと一部の新幹線ひかりのみ停車します。ご注意ください。
 ※バスの便数が少ないため、時刻表を確かめてからお越しください。

電車 (JR山陽本線) をご利用の方

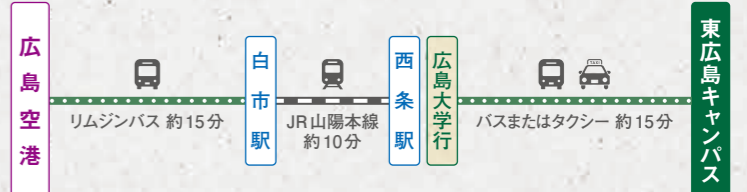
■「JR広島駅」から「JR西条駅」または「JR八本松駅」を経由して大学へ



※JR西条駅からのほうが、バスの便数が多くて便利です。

飛行機をご利用の方

■リムジンバス「白市ルート」



自家用車をご利用の方

■大阪方面からお越しの場合



■九州方面からお越しの場合





<https://www.hiroshima-u.ac.jp/seisei>

広島大学 生物生産学部